2025 年 12 月 2 日　岐阜大学図書館委員会承認
2025 年 12 月 9 日　名古屋大学図書館委員会承認

東海国立大学機構　図書館のミッション・バリューとグランドデザイン

１．趣旨

本文書に掲げる「図書館グランドデザイン」は、東海国立大学機構の図書館がめざす、2035 年の将来像（ビジョン）と、それに向けたアクションを示したものである。

岐阜大学と名古屋大学の図書館は、2020 年 4 月の機構成立を受けて、機構における図書館の在り方を検討し、「図書館グランドデザイン 2021」を定めて活動してきた。本文書では、2025 年時点での達成度や状況の変化を踏まえて見直しを行い、10 年後に実現したい図書館の将来像（ビジョン）と、そのために必要なアクションを新たなグランドデザインとした。また、今回改めて策定したミッションとバリューを、それに先立って示している。

今後、本機構の図書館は、2035 年に向けて、このグランドデザインのもと、別途ロードマップを作成し活動していく。ただし、AI の進展等により大学での教育や科学研究のあり方も大きな影響を受けることが考えられるため、今後の状況の変化によっては、「知の拠点」として適切に役割を果たせるよう、グランドデザインを見直すものとする。

２．ミッションとバリュー

「図書館グランドデザイン 2021」では、ミッションやバリューは一体的に示されていた。今回は、これを別に策定した。

この未来に向けて設定したミッションとバリューのもと、今後 10 年の将来構想としてビジョンとアクションからなる「図書館グランドデザイン」を、３にまとめた。

○ミッション（存在意義）

東海国立大学機構の図書館は、未来へつながる「知の拠点」として、学術情報の発見・利用・創造・共有を促進する。学術情報を必要とする学生・研究者をはじめとするすべての利用者に情報へのアクセスを保証し、新たな知識創造と社会への還元を支援する。そのため、先進的なデジタル環境と質の高い物理的空間、そして専門的サポートを提供し、学術の持続的発展に貢献する。

○バリュー（大切にしている価値、行動指針）

- ✧　学びと教育の信頼されるパートナーであり続ける
- ✧　知の創出とオープンな知の循環を支える
- ✧　地域と共に歩む知的・文化的拠点となる
- ✧　多様な声に耳を傾け、柔軟に進化し続ける
- ✧　積極的に連携し、共に価値を生み出す
- ✧　運営を担う職員は、専門性を高めるため学び続ける

３．図書館グランドデザイン

（１） ビジョン（2035 年の将来像）

「オープンな知の循環を推進する世界水準のナレッジサービス」

大学の多様で豊かな知的活動を支える研究図書館として、学修・教育、研究、社会・地域貢献で必要とされる、学術情報に関する世界水準の高度なサービスを提供。デジタル活用とオープン志向を徹底した新たなナレッジサービスとして、地域にそして世界に知の循環を拡大。AI がもたらす変化に対応して、「知の拠点」としての役割を変革。

（２） 領域ごとの将来像とアクション

1） 学修・教育支援

（現状・課題）

学修ステージに即した学術情報リテラシー教育を徐々に整備

（アクション）

学内での連携強化、海外研究図書館とのベンチマーク、AI 専門人材の配置など AI 環境への対応

（2035 年の将来像）

多様なニーズに即した学修・教育支援を、AI が浸透した環境に即して多角的に提供

- ✦ 学修ステージに適した講習や教材を、必要とする学生・教員に適切に提供
- ✦ 学修・教育支援サービスが教員に浸透
- ✦ AI が浸透した環境に即した学生の学術情報リテラシー修得を推進し、支援には AI も活用
- ✦ 世界の卓越した研究図書館を参考に、学修・教育支援を新たに企画

2） 研究支援

（現状・課題）

学術コミュニケーション・オープンアクセス・研究データに関する支援を徐々に拡充

（アクション）

海外の研究図書館とのベンチマーク、データライブラリアン等の高度専門人材の配置、支援体制の強化など

（2035 年の将来像）

AI ツール、データ管理、成果公表等、学術情報に関わる質の高い支援を研究活動の各段階で提供

- ✦ 研究者の状況・要望に応じた論文のオープンアクセス化支援を安定的に提供

- 情報部門との連携を通じ、研究データ管理に関する支援を一元的に提供（オープンサイエンス推進）
- 収集・公開の仕組みや体制の整備を経て、デジタルアーカイブが活性化
- 学術情報に関する AI ツール活用のための情報提供や教材を提供
- 世界の卓越した研究図書館を参考に、研究支援を新たに企画

3) 社会・地域貢献

（現状・課題）

地域社会との連携、市民向けサービスは限定的

（アクション）

地域の類縁組織等と連携したデジタルアーカイブ活動、学術情報リテラシー教育の市民への展開など

（2035 年の将来像）

地域の学術資料のオープン化、市民の知的活動支援等、地域の学術情報拠点としての役割を強化

- 卒業生や市民、連携企業向けに、学術情報に関する講習会や教材提供を展開
- 地域との連携により特色あるコレクションを収集、デジタル化公開を推進
- 参加や支援の裾野を広げるデジタルアーカイブを活用したイベントが定着
- 市民によるデジタル・コンテンツの活用例が共有され、新たな活用を促進

4) コンテンツ・蔵書・コレクション

（現状・課題）

電子ジャーナルの持続可能性に懸念、蔵書のデジタル化は不十分、貴重コレクションの活用を強化する余地

（アクション）

AI やデータを活用し、学術リソースの提供を最適化する取組み、蔵書や貴重コレクションの価値を拡大する取組みを推進

（2035 年の将来像）

必要な学術リソースをバランス良く提供し、蔵書や貴重コレクションの価値をデジタルで拡大

- 必要な電子ジャーナル等をデータに基づく最適なバランスにより的確に提供
- 国立国会図書館等とも連携し、資料のデジタル提供を推進
- 適切で豊富な学習データに基づく AI の活用などにより、蔵書やコレクションの発見・活用可能性を拡大
- 蔵書のテキストデータ活用などにより、蔵書やコレクションの価値を拡大
- 資料の共同保存による蔵書規模の最適化により、スペースを有効に機能転換

5） 施設・設備

（現状・課題）

膨大な蔵書の収容スペース、機能転換が必要な学習空間

（アクション）

多様なニーズを踏まえた、利用者の知的活動に寄りそう空間整備を推進

（2035 年の将来像）

探求を支える没入と、気づきに繋がる交流を促す、多様な人と情報が行き交う創造的環境を整備

- 展示やイベントなどを通じた知的発見や交流の機会を積極的に提供
- 知識と資料に基づく深い探求を促す没入空間の提供を強化
- 物理空間とデジタル・ライブラリーとの融合を推進
- 多様な利用者のニーズに寄り添い、Well-being 支援の場としても定着
- 組織の枠を越え、キャンパスや部局の個性とニーズに即した空間を順次整備

6） 運営・人材・システム

（現状・課題）

サービスの多様化、機能高度化に対応する運営と人材の確立に課題

（アクション）

AI 活用による業務効率化とシステム連携の推進、専門人材の活躍を促すスキルベースの人事制度や環境を整備、デジタル・ライブラリー推進室の設置、世界の卓越した研究図書館とのベンチマーク、財政基盤の強化

（2035 年の将来像）

世界水準の研究図書館として、新たなナレッジサービスへの変革を継続

- 機構内の図書館システムが統合、最適化され、一元的利用が定着
- サービスや業務の変革のため、AI やロボット等の技術を積極的に導入
- 高度専門人材が活躍し、図書館職員全般のスキル向上にも貢献
- 図書館職員全般のスキル向上を促すスキルベースの人事制度が開始
- エフォート管理による他機関との高度専門人材による業務の相互補完を開始
- 世界の卓越した研究図書館と同等のサービスを提供、資金調達の多様化を推進

４．策定経緯

「図書館グランドデザイン 2021」は、岐阜大学と名古屋大学の図書館が、同じ機構の図書館として、様々な共同活動、新たな取組を進める方針として機能している。しかし、その後、岐阜大学における地域中核大学への挑戦、名古屋大学における国際卓越大学への挑戦という、大きな将来構想が描かれる中で、図書館としても、将来構想を見直す必要が生じた。

そこで、国レベルの検討や[i]、生成 AI の浸透など社会変化のインパクトも受けながら両大学の教員と職員の協働により新たなグランドデザインの検討を進めた。

2023 年度

・両大学の図書館職員による将来構想プロジェクトチーム（PT）による検討
・図書館情報学研究者との意見交換 等

2024 年度

・両大学の図書館委員会のもと、教員による新グランドデザイン検討ワーキンググループ（WG）を設置
・WG と機構内有識者との意見交換
・WG の検討に対して、PT が各種調査結果を提供（現行業務・サービスの分析、国内外の大学図書館とのベンチマーク、機構構成員へのインタビュー、アンケート調査結果）
・松尾東海国立大学機構長、吉田岐阜大学学長、杉山名古屋大学総長との対話

2025 年度

・WG 案をベースに PT を中心に図書館職員による見直し
・図書館委員会にて審議

別紙．東海国立大学機構 図書館のミッション・バリューとグランドデザイン（概要版）

---

[i] 文部科学省「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会，オープンサイエンスの時代にふさわしい「デジタル・ライブラリー」の実現に向けて～2030 年に向けた大学図書館のロードマップ～. (2025 年 6 月 13 日参照), https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/071/mext_00002.html.

東海国立大学機構　図書館のミッション・バリューとグランドデザイン（概要版）

ミッション（存在意義）

東海国立大学機構の図書館は、未来へつながる「知の拠点」として、学術情報の発見・利用・創造・共有を促進する。

学術情報を必要とする学生・研究者をはじめとするすべての利用者に情報へのアクセスを保証し、新たな知識創造と社会への還元を支援する。そのため、先進的なデジタル環境と質の高い物理的空間、そして専門的サポートを提供し、学術の持続的発展に貢献する。

MISSION

VISION

バリュー（行動指針）

- 学びと教育の信頼されるパートナーであり続ける
- 知の創出とオープンな知の循環を支える
- 地域と共に歩む知的・文化的拠点となる
- 多様な声に耳を傾け、柔軟に進化し続ける
- 積極的に連携し、共に価値を生み出す
- 運営を担う職員は、専門性を高めるため学び続ける

VALUE

図書館グランドデザイン

ビジョン（2035年のあるべき姿）

「オープンな知の循環を推進する世界水準のナレッジサービス」

大学の多様で豊かな知的活動を支える研究図書館として、学修・教育、研究、社会・地域貢献で必要とされる、学術情報に関する世界水準の高度なサービスを提供。デジタル活用とオープン志向を徹底した新たなナレッジサービスとして、地域にそして世界に知の循環を拡大。AIがもたらす変化に対応して、「知の拠点」としての役割を変革。

学修・教育支援	多様なニーズに即した学修・教育支援を、AIが浸透した環境に即して多角的に提供
研究支援	AIツール、データ管理、成果公表等、学術情報に関わる質の高い支援を研究活動の各段階で提供
社会・地域貢献	地域の学術資料のオープン化、市民の知的活動支援等、地域の学術情報拠点としての役割を強化
コンテンツ・蔵書・コレクション	必要な学術リソースをバランス良く提供し、蔵書や貴重コレクションの価値をデジタルで拡大
施設・設備	探求を支える没入と、気づきに繋がる交流を促す、多様な人と情報が行き交う創造的環境を整備
運営・人材・システム	世界水準の研究図書館として、新たなナレッジサービスへの変革を継続

主要アクション

- ✓ 既存のサービス・運営・コンテンツ等を、デジタルとAIを前提とし、それらを活用して見直す。
- ✓ 機構内外の多様なニーズを踏まえ、新たなサービスや環境整備を企画する。
- ✓ 海外の研究図書館とのベンチマークや、他機関との連携を変革に活かす。
- ✓ デジタル・ライブラリー推進室を設置し、高度専門人材を配置して変革を推進する。
- ✓ スキルベースの人事制度など、職員の専門性向上の方策を整備する。